

# 7 課

2月18日

## これらの最も小さい者に



安息日午後 2月11日

### 暗唱聖句

そのとき、王は右にいる人々に言うであろう、「わたしの父に祝福された人たちよ、さあ、世の初めからあなたがたのために用意されている御国を受けつぎなさい」。(マタイ 25 : 34、口語訳)

そこで、王は右側にいる人たちに言う。「さあ、わたしの父に祝福された人たち、天地創造の時からお前たちのために用意されている国を受け継ぎなさい。」(マタイ 25 : 34、新共同訳)

### 今週の聖句

ルカ 4 : 16～19、イザヤ 62 : 1、2、申命記 15 : 11、マタイ 19 : 16～22、  
ルカ 19 : 1～10、ヨブ記 29 : 12～16

### 今週のテーマ

聖書はしばしば、よそ者(時に寄留者と呼ばれる人々)、父のない子、そして、寡婦<sup>かふ</sup>について語っています。このような人たちは、イエスが「これらの最も小さい者」(マタ 25 : 40、口語訳)として言及された人たちであるかもしれません。

現代では、これらの人々はどのような人たちと言えるでしょうか。聖書の時代のよそ者とは、戦争や飢饉のために祖国を離れなければならなかった人たちのことです。現代にこれに相当するのは、自分が選ばずに陥った状況のために困窮している何百万人もの難民と言えるでしょう。

父のない子とは、戦争、事故、病気などで父親を亡くした子どもたちのことです。その中には、父親が刑務所にいるなどして家庭にいない子どもたちも含まれます。彼らのための支援は、なんと広範囲におよぶことでしょう。

寡婦は、父のない子と同じような理由で配偶者を失った女性のことです。その多くは、単親家庭の世帯主であり、教会が提供する支援を必要としています。

私たちが今週このテーマについて学ぶのは、私たちは、神の事業の管理者であり、貧しい人々を助けることは単なる選択肢の一つではないからです。それは、イエスの模範<sup>なら</sup>に倣うことであり、イエスのご命令に従うことだからです。

イエスは公生涯の初めに、ガリラヤ地方のナザレに行かれました。ナザレは、イエスの故郷であり、そこに住む人々はすでに、イエスの働きと奇跡について聞いていました。イエスはいつものように会堂に入り、安息日の礼拝に出席されました。イエスは、公的なラビではありませんでしたが、参会者からイザヤの巻物を渡され聖書を朗読するよう頼まれると、イザヤ61：1、2を読まれました。

**問1 ルカ4：16～19をイザヤ61：1、2と比較してください（ルカ7：19～23も参照）。なぜイエスはこの箇所を選ばれたのでしょうか。なぜこの箇所はメシア預言としてみなされるのでしょうか。この箇所はどのようなメシアの働きを明らかにしていますか。**

宗教指導者たちは明らかに、受難のメシアを語る預言を見過ごし、メシアの再臨の栄光を示す預言を誤って適用をしていたようです（このことは、預言の理解がいかに重要であるかを私たちに思い知らせています）。ほとんど人々は、メシアの使命はイスラエルを征服し圧迫するローマ人から解放することである、という誤った考えを抱いていました。イザヤ61：1、2に記されているメシアの使命に関する預言を知ることは、衝撃的であったに 違いありません。

貧しい人々は、徴税人のような不徳な役人たち、商売人たち、さらに隣人たちからさえ見下されるのが常でした。貧困は神の呪いであり、彼らの不幸な状況は彼ら自身の責任であると一般に考えられていました。そのため、貧しい人々や彼らの不幸な境遇に関心を持つ人はほとんどいませんでした。

しかし、イエスの貧しい人々への愛は、イエスがメシアである最大の証拠であり、バプテスマのヨハネの「来るべき方〔メシア〕は、あなたでしょうか」との問いに対するイエスの答えに見られるとおりでした（マタ11：1～6参照）。「救い主の弟子たちと同じように、バプテスマのヨハネは、キリストの王国の性質を理解していなかった。彼はイエスがダビデの位につかれるものと期待した。ところが、時が過ぎても、救い主が王の権威を主張されないので、ヨハネは困惑し、心配した」（『希望への光』775ページ、『各時代の希望』上巻266ページ）。

「みなしごや、やもめが困っているときに世話をし、世の汚れに染まらないように自分を守ること、これこそ父である神の御前に清く汚れのない信心です」（ヤコ1：27）。この聖句は、私たちの宗教的な優先順位を決めるためにどのような助けとなりますか。

聖書記者たちは、その記述の中に、貧しい者、よそ者、寡婦、そして父のいない子らのための神の多くの備えについて記録しています。私たちはその記録をシナイ山にさかのぼって見ることができます。「あなたは六年の間、自分の土地に種を蒔き、産物を取り入れなさい。しかし、七年目には、それを休ませて、休閑地としなければならない。あなたの民の乏しい者が食べ、残りを野の獣に食べさせるがよい。ぶどう畑、オリーブ畑の場合も同じようにしなければならない」(出23:10、11)。

**問2** レビ記 23:22 と申命記 15:11 を読んでください。現代の私たちの生活状況とは異なっても、これらの聖句からどんな原則を見いだすことができますか。

ここに書かれている「同胞」は、一般に、イスラエル人、あるいは信仰の仲間を意味すると理解されています。私たちはまた、善良な貧しい者、あるいは「これらの最も小さい者」とも考えています。詩編は、私たちがこれらの困っている人にどのように接するべきか、次のように示しています。「弱者や孤児のために裁きを行い／苦しむ人、乏しい人の正しさを認めよ。弱い人、貧しい人を救い／神に逆らう者の手から助け出せ」(詩編82:3、4)。この聖句は、私たちが単に食糧を提供するだけでなく、様々な方法での関わりを示しています。

次に、貧しい人を助ける人への約束があります。「貧しい人に与える人は欠乏することがない」(箴言28:27)。「弱い人にも忠実に裁きをする王。その王座はとこしえに堅く立つ」(同29:14)。さらにダビデ王は次のように記しました。「いかに幸いなことでしょうか。弱いものに思いやりのある人は。災いのふりかかるとき／主はその人を逃れさせてくださいます」(詩編41:2 [口語訳41:1])。このように、古代イスラエルでは、たとえ時に忘れられることはあっても、貧しい人を助けることは、常に優先されることでした。

対照的に、近代になってからも、特にイギリスでは、「社会ダーウィニズム」として知られる考え方の影響を受けて、多くの人々は貧しい人を助けることは道徳的義務がないだけでなく、実際には間違っていると考えました。それどころか、「社会ダーウィニズム主義者」は、弱肉強食という自然の道理に従えば、貧しい者、病める者、困窮する者を助けることは、社会にとって有害であり、彼らが増えれば、国家全体の社会構造を弱めるだけだと考えました。どんなに残酷であろうとも、この考え方は、進化論への信念の論理的な副産物であり、偽りの物語であると言えます。

この金持ちの若い議員について私たちは、年が若く、議員〔口語訳では役人〕であり、金持ちであったこと以外のことはあまり知りません。彼は靈的なことに関心を持っていました。また、イエスに走ってくるほど活動的で（マコ10：17）、永遠の命について学ぶことに喜んでいました。この物語が三つの共観福音書すべて（マタ19：16～22、マコ10：17～22、ルカ18：18～23）に記録されているのは、非常に重要であるからです。

**問3** マタイ 19：16～22 を読んでください。イエスはなぜ彼に、「もし完全になりたいのなら、行って持ち物を売り払い、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に富を積むことになる。それから、わたしに従いなさい」（21節）と言われたのでしょうか。

イエスは、だれに対しても自分の持っている物を全部売り払い、貧しい人々に与えるようにはお求めになりません。しかし、この若者にとって金銭は、神であったに違いありません。イエスの答えは非常に厳しく思えるかもしれませんが、イエスは、それがこの若者の唯一の救いの希望であることを知っておられました。

聖書には、彼は悲しみながら立ち去った、たくさんの財産を持っていたからである、とありますが、これは彼がいかに金銭を崇拜していたかを証明しています。彼は、永遠の命とイエスの側近としての地位（「わたしに従いなさい」とイエスが十二弟子を召されたのと同じ言葉）を与えられました。しかし、この青年の消息は不明です。彼は、永遠と地上の財産を引き換えたのでした。

なんとひどい取引だったのでしょうか。〔目先の欲求を我慢する〕「満足遅延耐性」に従わないことのなんと悲しい例でしょう（先週日曜日参照）。なぜなら、今、物質的な富が私たちに与えるものは何であれ、遅かれ早かれ私たちは皆、死んで、永遠という大きな視点を見通すことになるからです。また、多くの裕福な人々が、富が期待していたような平安や幸福を与えてくれないことを悟っています。実際、多くの場合、逆のことが起こっているように見えるのです。多くの裕福な人々がいかに惨めであったかを、多くの伝記が書き記しています。

実際、歴史上、富が満足をもたらすことはないということを最もよく表している記述は、コヘレトの言葉の中にあります。ここから得られる他の教訓が何であれ、はっきり言える一つのことは、金銭で平安や幸福を買うことはできないということです。

ザアカイは、裕福なユダヤ人で、憎まれていたローマ人のために徴税人として働き、金銭を稼いでいました。彼と他の徴税人は、実際よりも多くの税金を取り立てていたのです。ザアカイは嫌われ、「罪人」と呼ばれていました。

ザアカイは、商業取引の盛んなエリコに住んでいました。ザアカイとイエスの出会いは、偶然ではありませんでした。ザアカイは明らかに、霊的に罪の自覚があり、人生を変えたいと望んでいました。ザアカイは、イエスのうわさを聞くと、彼に会いたいと思いました。ザアカイに語られたキリストの最初の言葉は、町に入る前から、イエスが彼のことをすでにご存じであったことを表しています。

#### 問4 ルカ 19：1～10 を読んでください。この裕福な男とイエスの出会いは、金持ちの若い議員との出会いと、何が違っていましたか。

ザアカイと金持ちの若い議員には、いくつか共通点がありました。どちらも裕福で、イエスに会うことを望み、永遠の命を求めていました。しかし、2人の共通点は、ここまでです。

ザアカイが、「わたしは財産の半分を貧しい人々に施します」と言ったとき、イエスが、これを真の回心の表れとして受け入れられたことに注目してください。イエスは彼に、「残念だがザアカイ、あの議員のように、すべてを施すか施さないかだ。半分ではないのだ」とは言われませんでした。なぜでしょうか。ザアカイは、あの議員と同じように、確かに富は好きでしたが、富が神ではありませんでした。実際、イエスが何か特別なことを語ったかはわかりませんが、ザアカイは、貧しい人々に財産を施すことについて最初に語った人でした。対照的に、イエスは、金持ちの若い議員には財産のすべてを手放すように言う必要がありました。そうしなければ、富が彼を滅ぼすことになるからです。ザアカイは、他の裕福な人と同様に、富の危険性に注意を払う必要がありましたが、あの金持ちの若い議員よりも、富をうまく管理していたように見えるのです。

「富裕な若い役人がイエスから立ち去った時に、弟子たちは主が、『財産のある者が神の国にはいるのは、なんとむずかしいことであろう』と言われるのを聞いて驚き、互に、『それでは、だれが救われることができるのだろうか』と叫んだ（マルコ10：23、26）。いま彼らは、『人にはできない事も、神にはできる』と言われたキリストのみことばが事実であることを実際に示された（ルカ18：27）。彼らは、富裕な人でも、神の恵みによって、神の国に入ることができることを知った」（『希望への光』961ページ、『各時代の希望』中巻376ページ）。

問5 ヨブ記1:8を読んでください。ヨブは神ご自身によってどのように描写されていますか。

神でさえヨブを「全く、かつ正しく」(ヨブ1:8、口語訳)とみなされ、当時の地上にはだれも彼に匹敵しないほど「完全」で「正しく」あったと言っています。繰り返しますが、これは、ヨブについての神ご自身の言葉です。

ヨブが次々と大惨事に見舞われた後でさえ、神は、ヨブについて最初に言われたこと、すなわち、彼のように完全で正しい者はこの地上にだれもないことを繰り返されました。ただ、新しい言葉が付け加えられました。「あなたは、わたしを勧めて、ゆえなく彼を滅ぼそうとしたが、彼はなお堅く保って、おのれを全うした」(同2:3、口語訳)と、それでもなおヨブは、完全に正しくあったと言われるのです。

ヨブの完全さと正しさを力強く垣間見ることができるのは、ヨブが、大惨事に見舞われたにもかかわらず、また妻から「あなたはなおも堅く保って、自分を全うするのですか。神をのろって死になさい」(同2:9、口語訳)とあざけられたにもかかわらず、神から離れることを拒んだことにあります。ヨブ記は、このドラマが展開される前のヨブの生涯のもう一つの側面を明らかにしています。

問6 ヨブ記29:12~16を読んでください。ここにヨブの品性の秘密について、さらに深い洞察を与えてくれるどんな記述がありますか。

この中で、最も洞察に富むヨブの言葉は次の言葉です。「貧しい人々の父となり／わたしにかかわりのない訴訟にも尽力した」(ヨブ29:16)。ヨブはただ待っていたのではありませんでした。例えば、ぼろぼろの服を着た物乞いが近寄って来るのを待つのではなく、積極的に助けを必要とする人々を探し、行動したのです。

エレン・G・ホワイトは次のように勧めています。「彼ら(貧しい人々)が自らの必要性にあなたの注意を向けるのを待っていてはいけません。ヨブのように行動しましょう。ヨブは人々の必要を調べました。視察の旅に出かけ、何が必要で、どうすれば最もよく供給できるかを学びましょう」(『教会への証』第5巻151ページ、英文)。これが、今日、多くの神の子らの実践を超えた、行う必要のある神から預かった金銭と資源の管理のレベルです。

イザヤ58:6~8を読んでください。私たちはどのようにこの古代の言葉を受け止め、現代の私たちに適用することができるでしょうか。

「『人の子が栄光の中にすべての御使たちを従えて来るとき、彼はその栄光の座につくであろう。そして、すべての国民をその前に集めて……彼らをより分け』るであろう（マタイ25:31）。このようにキリストは、オリブ山で、大いなるさばきの日の光景を、弟子たちに描写された。しかもこの決定は、1つの点にかかっていると、主は言われた。国民が主の前に集められる時、そこには2つの階級しかないのであって、彼らの永遠の運命は、貧しい者や悩める者を通して主のためにつくしたか、それともつくすことを怠ったかによってきまるのである」（『希望への光』1009ページ、『各時代の希望』下巻107ページ）。

「困り苦しんでいるクリスチャンたちに戸を開く時、あなたは目に見えない天使たちを迎え入れているのである。あなたは天使たちとのまじわりを招いているのである。彼らは喜びと平和のきよい雰囲気をもって来る。彼らが口に賛美をもってやってくる時、天ではそれに応ずる歌の調べが聞かれる。愛の行為の1つ1つに天では音楽がかなでられる。天父はそのみ座から、無私の働き人をご自分の最もとうとい宝にかぞえられる」（『希望への光』1010ページ、『各時代の希望』下巻110ページ）。

## 話し合いのための質問

- ① 「この国から貧しい者がいなくなることはないであろう」（申15:11）。この預言は、数千年も前のものでありながら、不幸なことに成就しています。私たちは今日、この聖句をどのように理解すべきでしょうか。ある人たちはこの聖句を、「神は貧しい者はいつでも私たちの中にいるのだから、そういうものなのだ」と言って貧しい人々を助けないことを正当化する理由にしています。この考えのどこに偽りがあるでしょうか。
- ② 1テモテ6:17～19を読んでください。「この世で富んでいる人々に命じなさい。高慢にならず、不確かな富に望みを置くのではなく、わたしたちにすべてのものを豊かに与えて楽しませてくださる神に望みを置くように。善を行い、良い行いに富み、物惜しみをせず、喜んで分け与えるように。真の命を得るために、未来に備えて自分のために堅固な基礎を築くようにと」。危険なのは何か注目してください。生ける神に反して自分の富に信頼を置くことです。富んでいる人は、お金さえあれば生きているわけではないと知っているのに、なぜ簡単に富に信頼を置いてしまうのでしょうか。なぜ私たちは、生ける神以外のものに信頼を置かないよう注意しなければならないのでしょうか。

## フィンランドの双子の驚き

フィンランドの若き文書伝道者シモ・ヴェーカヴオリは、ラップランドで家々を訪問しているとき、驚くべき出来事を経験しました。彼が、ある家の扉の呼び鈴を鳴らすと、女性がドアを開け、外に立っている彼を見るなり、大きな声で言ったのです。「10巻の子ども用聖書物語を1セット注文したいの!」シモは、自分が本を販売していることも、ましてや聖書物語のセットを売っていることも、彼女にはまだ伝えていませんでした。「突然、驚いたでしょう?」と、彼女は微笑んで言いました。「ゆうべ夢を見たのよ。神様があなたを紹介しながらこう言うの。『この若者が明日あなたを訪ねて来るから、10巻の聖書物語のセットを買いなさい』って。扉を開けて、あなただわってわかったわ。だから、すぐに注文したのよ」

またある時、シモは地元企業の立ち寄り、エレン・ホワイトの『各時代の大争闘』を紹介しました。「私には、この本の内容はきっと理解できないでしょうね」と、女社長は答えました。「でも、うちの娘はミッションスクールの校長をしているの。娘は明日、ここに来る予定だから、明日また来てもらってもいいかしら」

シモは、同じ町の別の場所で文書伝道をしている双子の兄にその出来事について話し、「明日のために祈ってほしい」と伝えました。翌日、シモがその会社に行くと、女社長は彼女の娘を彼に紹介しました。その女性は、シモがセブンスデー・アドベンチストだと知ると突然顔色を変え、厳しく批判し始めました。彼女の話が終わったとき、「僕も話していいですか」と、シモは彼女に許可を求めました。「校長先生、あなたにお会いできてうれしいです。僕が仕えている神様がどれほど偉大なお方であるか、きっとあなたには想像もつかないと思います。でも僕は、自分が信頼している神様が導かれる所なら、どこへでも付いて行きたいと思っています」

彼女は、シモの落ち着いた態度を見て驚きました。「わかったわ。あなたにとって神様がそれほど信頼できるお方だというなら……」と言うと、「お母さん、今持ち合わせがないからお金を貸してくれる? 彼の持っている本を全部買いたいの」と母親に言いました。シモは、その女性や両親と一緒に祈りました。兄の待つ部屋に帰り着くと、彼はひざまずいて祈り、祈り終わると興奮しながら、神様の奇跡的な介入があったことを兄に語りました。

現在、引退したシモは、教会の使命を果たすために働くとき、神様のご臨在を目撃できたことを喜んで証しています。

(アンドリュー・マクチェスニー)

